

令和7年度 東はりま特別支援学校 学校評価結果

| 設問 | 重点               | 項目                        | 評価項目   | 担当校務部  | 職員評価 | 課題と改善策(成果)   | 評価項目(保護者)  | 保護者評価 | 外部関係者評価  |
|----|------------------|---------------------------|--|--|------|--|--|-------|--|
|    |                  |                           |  | 関連する取組   |      |  |  |       |  |
| 1  |                  | 個に応じた指導<br>(個別の教育支援・指導計画) | 本人・保護者の願いに基づき、合理的配慮を踏まえた指導・支援計画の作成および個に応じた指導における適切な評価・見直しを行っている。 | <支援部><br>個別の教育支援計画の作成<br>目標の共有・連携・実態把握<br>合理的配慮の合意形成<br><教務部><br>個別の指導計画の作成、目標設定と評価            | 3.46 | 今年度から、さらなる個別の教育支援計画の充実を図るため、本人・保護者の意向を事前に把握し、より適切な目標及び支援内容を設定できるように、年末に「作成アンケート」を実施した。また、保護者の参画意識を高めるため、教育支援計画の目的や作成手順を簡潔にまとめた資料を配付し、理解促進に努める。教育支援計画の主任/副主任回覧、管理職決裁を導入し、学校としてより信頼性・正確性の高い教育支援計画の作成を目指す。(支援部)<br>来年度以降も3観点について、自立活動の資料の配布を行う。研究研修部と連携をとりワークショップを開催したり、研修のあり方について協議を行っていく。児童生徒一人一人の実態にあった目標・手立てを作成し、授業を実施していきながら、クラス内の読み合わせ、話し合いの時間の確保を行う。(教務部)                        | 学校は、一人一人の実態に応じた専門的な指導を行い、「個別の教育支援計画・指導計画」では、お子様・保護者の願いを踏まえ、適切な目標設定と評価がされている。 | 3.72  | ・自身の経験上、学校評価がとて整理されている。<br>・ただし、保護者に対して、評価項目を示してアンケートをとるだけでは、内容として分りにくく、ありがたいな評価になっってしまう。(学校評議員会の場で)各分掌より、1年間の活動報告を行ってもらったような様々な良い取組が、保護者には伝わりきっていないのではないか。活動内容をより具体的に、工夫して伝えていくと、保護者にも、職員にも伝わりやすくなり、評価もよりやすくなると思われ。一度に全部変更すると負担も大きいので、16項目のうち一つでも具体的に示してみることを提案する。評価が具体的に目録が職員の間にもなりやすくなり、結果、PDCAサイクルにつながっていく。<br>・昔は項目が細かくて職員評価の回答率が低かったが、今は高くて良い。<br>・最後の業務改善については、数字だけでなく、言葉で(記述で)意見を求めていると思う。<br>・交流および共同学習は10年以上続いていて、嬉しく感じた。<br>・センターの機能に関しては、地域の特別支援担当の先生との関わりを深めてほしい。<br>・職員が一つになって、前向きに進められているように感じる。<br>・地域も巻き込んで発信、連携ができればよいと思う。東はりまフェスタなども地域の方がもっと参加できたり、一緒にやったりしていただけたらと思う。<br>・交流活動が多くて嬉しい。<br>・世間では学校の職員不足が叫ばれていますが、大丈夫ですか？地域も一緒に何かできれば、と思う。<br>・保護者代表の立場として、見えない部分を見ることができて学校への信頼が高まった。保護者どうしの共有ができればよいと思う。<br>・保護者の学校評価を見ると、3.79~3.54の評価値を示しており、概ね良好と思われる。 |
| 2  | 子どもの育ちを実感する学校づくり | 授業づくり                     | 児童生徒一人一人の実態に応じた主体的・対話的で深い学びを意識し、ICT機器を効果的に活用した授業改善に取り組んでいる。      | <教務部><br>年間指導計画<br>学習指導要領に基づく授業計画<br><研究研修部><br>授業研究<br><情報部><br>情報研修<br>ICT(タブレット端末・電子黒板)活用授業 | 3.26 | 年度末に記入した反省点を年度末に教務部で吸い上げ、年度当初、年間指導計画を作成する際に反映させる。昨年度の授業内容を確認しながら、新年度の授業内容・目標を考え、学期ごとに授業内容を修正することによって、系統性のある指導になるようにする。(教務部)<br>児童生徒の自立活動の中心課題を導く研修を各学部で実施する。全職員で学部を超えた縦割りグループを作り、自立活動について授業交流を行い、12年間でどのような力をどのように積み上げていくのかを考える機会をもち、授業改善に取り組む。(研究研修部)<br>ICT機器について苦手意識を持っている教師に対して、児童生徒の実態に応じた授業実践例や、ICT機器の便利な使い方について紹介する。要望をアンケート等でとりまとめ、適切な研修を行っていく。ICT機器を使った授業研究研修の時間を確保する。(情報部) | 学校は、一人一人の実態を把握しつつ、ICT機器も活用しながら主体的・対話的で深い学びを意識した授業改善に取り組んでいる。                 | 3.57  | ・交流および共同学習は10年以上続いていて、嬉しく感じた。<br>・センターの機能に関しては、地域の特別支援担当の先生との関わりを深めてほしい。<br>・職員が一つになって、前向きに進められているように感じる。<br>・地域も巻き込んで発信、連携ができればよいと思う。東はりまフェスタなども地域の方がもっと参加できたり、一緒にやったりしていただけたらと思う。<br>・交流活動が多くて嬉しい。<br>・世間では学校の職員不足が叫ばれていますが、大丈夫ですか？地域も一緒に何かできれば、と思う。<br>・保護者代表の立場として、見えない部分を見ることができて学校への信頼が高まった。保護者どうしの共有ができればよいと思う。<br>・保護者の学校評価を見ると、3.79~3.54の評価値を示しており、概ね良好と思われる。   |
| 3  |                  | 体験活動・学校行事                 | 校内外での体験活動や学校行事を通して、社会生活に必要なスキルや生きる力を育てている。                       | <総務部、各学部><br>体験学習<br>宿泊学習<br>学校行事<br>学部・学年行事<br>学級活動   | 3.48 | 予算等の関係もあるので、今後行事の精選を行う必要がある。特に芸術鑑賞会や離任式等は開催方法を再考していく。(総務部)<br>学年ごとに検討しているが、その年度ごとに児童の実態を踏まえて、行先だけでなく、活動内容やつきたい力など多角的な視点から体験学習の内容を検討していく。(小学部)<br>生徒の成功体験を積み重ねる指導を継続しつつ、授業と日常生活、体験学習を関連付けた指導を行なうことで、各生徒の課題解決に向けた取り組みをいっそう深化させたい。(中学部)<br>事前学習で公共の場でのマナーの学習や主体的な活動計画を立てているが、事前学習に当てられる時間が少ないため、時間の確保が課題である。(高等部)   | 学校は、校内外での体験活動を通して、社会のマナーやルールを守る指導に取り組んでいる。                                   | 3.76  | ・交流および共同学習は10年以上続いていて、嬉しく感じた。<br>・センターの機能に関しては、地域の特別支援担当の先生との関わりを深めてほしい。<br>・職員が一つになって、前向きに進められているように感じる。<br>・地域も巻き込んで発信、連携ができればよいと思う。東はりまフェスタなども地域の方がもっと参加できたり、一緒にやったりしていただけたらと思う。<br>・交流活動が多くて嬉しい。<br>・世間では学校の職員不足が叫ばれていますが、大丈夫ですか？地域も一緒に何かできれば、と思う。<br>・保護者代表の立場として、見えない部分を見ることができて学校への信頼が高まった。保護者どうしの共有ができればよいと思う。<br>・保護者の学校評価を見ると、3.79~3.54の評価値を示しており、概ね良好と思われる。   |
| 4  |                  | キャリア教育・進路指導               | キャリア教育発達段階表を意識し、本人・保護者の願いに寄り添った継続的かつ系統的な進路指導に取り組んでいる。            | <進路指導部><br>キャリア教育発達段階表<br>保護者向け進路研修会、見学会<br>進路懇談会(高)<br>進路説明会<br>保護者懇談・相談                      | 3.20 | キャリア教育発達段階表(就労に向けて育成すべき児童生徒の力)の活用について、教師への周知は年度初めに行ったが、活用についての確認や保護者と連携しながらの取り組みが課題となる。進路説明会での説明に加えて各懇談での資料としての活用も今後は考えられる。また、高等部での進路希望調査後は各学年で情報共有、課題の確認を行い、保護者懇談を通して家庭と連携しながら本人・保護者に寄り添った進路指導を行う。  | 学校は、一人一人に合った自立と社会参加を目指し、お子様・保護者の願いに寄り添った進路指導をしている。                           | 3.60  | ・交流および共同学習は10年以上続いていて、嬉しく感じた。<br>・センターの機能に関しては、地域の特別支援担当の先生との関わりを深めてほしい。<br>・職員が一つになって、前向きに進められているように感じる。<br>・地域も巻き込んで発信、連携ができればよいと思う。東はりまフェスタなども地域の方がもっと参加できたり、一緒にやったりしていただけたらと思う。<br>・交流活動が多くて嬉しい。<br>・世間では学校の職員不足が叫ばれていますが、大丈夫ですか？地域も一緒に何かできれば、と思う。<br>・保護者代表の立場として、見えない部分を見ることができて学校への信頼が高まった。保護者どうしの共有ができればよいと思う。<br>・保護者の学校評価を見ると、3.79~3.54の評価値を示しており、概ね良好と思われる。   |
| 5  |                  | 人権・道徳教育                   | 生命や自分を大切にすることを育て、他人を思いやる心を育てる視点を意識し、教育活動全般において取り組んでいる。           | <総務部><br>人権学習<br><教務部><br>道徳の指導  | 3.40 | 人権教育は各学年の実態に応じて実施され、職員研修も年に1度行うことができています。今後においては、体系的に人権学習に取り組んでいくことも検討していく。加えて、人権教育推進委員会のあり方を見直し、毎年かけて人権教育を包括的に取り組むことができるよう組織立ていく。(総務部)<br>各学部・学年ごとに教科用図書を活用した年間指導計画を作成し、道徳部会で内容検討をした後、各学部で周知し、指導にあたる。(教務部)  | 学校は、命を大切にすることを育てるとともに、人の気持ちを考えることを大切に指導に取り組んでいる。                             | 3.65  | ・交流および共同学習は10年以上続いていて、嬉しく感じた。<br>・センターの機能に関しては、地域の特別支援担当の先生との関わりを深めてほしい。<br>・職員が一つになって、前向きに進められているように感じる。<br>・地域も巻き込んで発信、連携ができればよいと思う。東はりまフェスタなども地域の方がもっと参加できたり、一緒にやったりしていただけたらと思う。<br>・交流活動が多くて嬉しい。<br>・世間では学校の職員不足が叫ばれていますが、大丈夫ですか？地域も一緒に何かできれば、と思う。<br>・保護者代表の立場として、見えない部分を見ることができて学校への信頼が高まった。保護者どうしの共有ができればよいと思う。<br>・保護者の学校評価を見ると、3.79~3.54の評価値を示しており、概ね良好と思われる。   |
| 6  | いのちと人権を大切に       | いじめ・生徒指導                  | いじめの未然防止と早期発見に向けて取り組み、必要に応じて保護者や関係機関と連携して対応している。                 | <生徒指導部><br>いじめ防止基本方針<br>学警連携   | 3.52 | 中学部、高等部を中心に、生徒指導事例が複数あった。必要に応じて保護者、警察と連携しつつ対応を行ったが、各学年間や担任間での内部の指導方針の共有が遅れることがあったため、事業報告の迅速化、生徒指導委員会の即時実施などの方法を検討する。(生徒指導部)  | 学校は、人間関係づくりに関する指導やいじめの未然防止に向けた指導に取り組んでいる。                                    | 3.61  | ・交流および共同学習は10年以上続いていて、嬉しく感じた。<br>・センターの機能に関しては、地域の特別支援担当の先生との関わりを深めてほしい。<br>・職員が一つになって、前向きに進められているように感じる。<br>・地域も巻き込んで発信、連携ができればよいと思う。東はりまフェスタなども地域の方がもっと参加できたり、一緒にやったりしていただけたらと思う。<br>・交流活動が多くて嬉しい。<br>・世間では学校の職員不足が叫ばれていますが、大丈夫ですか？地域も一緒に何かできれば、と思う。<br>・保護者代表の立場として、見えない部分を見ることができて学校への信頼が高まった。保護者どうしの共有ができればよいと思う。<br>・保護者の学校評価を見ると、3.79~3.54の評価値を示しており、概ね良好と思われる。   |
| 7  |                  | 健康教育                      | 食育指導および清潔保持、生活習慣、感染症予防など日常的に健やかな体づくりに取り組み、健康教育が継続的に行われている。       | <保健部><br>食育<br>給食指導<br>アレルギー対応   | 3.54 | 食育アンケートを今年度も実施、家庭の食事の様子や、嗜好の把握に努め、学校全体で共有している。さらに懇談等の機会を通じて個別に栄養指導を行っている。また、感染症対策として、手洗いや消毒を徹底し、教室の換気に努めている。肥満・痩身、生活習慣の乱れ、アレルギー疾患、メンタルヘルスの問題など、児童生徒が抱える多種多様な健康課題に対して、学部学年、養護教諭、栄養教諭、学校医と連携を図りながら、学校全体で情報を共有し、個に応じた継続的な指導・支援を行っていく必要がある。(保健部)   | 学校は、食育指導を行うとともに、体調管理や清潔、感染症対策など、健康な体づくりの指導に取り組んでいる。                          | 3.78  | ・交流および共同学習は10年以上続いていて、嬉しく感じた。<br>・センターの機能に関しては、地域の特別支援担当の先生との関わりを深めてほしい。<br>・職員が一つになって、前向きに進められているように感じる。<br>・地域も巻き込んで発信、連携ができればよいと思う。東はりまフェスタなども地域の方がもっと参加できたり、一緒にやったりしていただけたらと思う。<br>・交流活動が多くて嬉しい。<br>・世間では学校の職員不足が叫ばれていますが、大丈夫ですか？地域も一緒に何かできれば、と思う。<br>・保護者代表の立場として、見えない部分を見ることができて学校への信頼が高まった。保護者どうしの共有ができればよいと思う。<br>・保護者の学校評価を見ると、3.79~3.54の評価値を示しており、概ね良好と思われる。   |
| 8  |                  | 安全教育                      | 防災および交通安全、不審者、SNSトラブルなど児童生徒の特性に配慮した安全教育が計画的に実施されている。             | <管理図書部><br>状況(火災・地震・水害)を想定した訓練、防災学習<br>不審者対応訓練(警察署員招聘)<br>引き渡し訓練<br><生徒指導部><br>交通安全教室          | 3.33 | 訓練の内容がややパターン化している側面もある。バリエーションのある訓練(予告無し、訓練のタイミング、複数の災害想定など)も今後実施していきたい。また地域の避難所としての役割を、引き続き整理しながら播磨町との連携を図りたい。(管理図書部)<br>自力通学生徒の事故、SNS関連のトラブル事例が、それぞれに複数あった。年1回は外部講師による研修を行っているが、特に高等部生徒については、毎学期、生徒指導部と各学年、クラスから、交通安全や情報モラルに関する指導を確実に実施していく。(生徒指導部)  | 学校は、防災避難訓練や交通安全教室などを実施し、お子様の安全教育に取り組んでいる。                                    | 3.79  | ・交流および共同学習は10年以上続いていて、嬉しく感じた。<br>・センターの機能に関しては、地域の特別支援担当の先生との関わりを深めてほしい。<br>・職員が一つになって、前向きに進められているように感じる。<br>・地域も巻き込んで発信、連携ができればよいと思う。東はりまフェスタなども地域の方がもっと参加できたり、一緒にやったりしていただけたらと思う。<br>・交流活動が多くて嬉しい。<br>・世間では学校の職員不足が叫ばれていますが、大丈夫ですか？地域も一緒に何かできれば、と思う。<br>・保護者代表の立場として、見えない部分を見ることができて学校への信頼が高まった。保護者どうしの共有ができればよいと思う。<br>・保護者の学校評価を見ると、3.79~3.54の評価値を示しており、概ね良好と思われる。   |
| 9  |                  | 信頼に応える学校づくり               | 授業研究や研修を通して、特別支援教育の専門性向上に努めている。                                  | <研究研修部><br>研究授業<br>講師招聘による研修会<br>校内教員による研修会<br>教材展<br><支援部><br>スクールカウンセラー等による研修会               | 3.39 | 研究テーマに沿った授業で研究授業、研修会を実施し、各学年、学部、全体で検討、共有する機会をもつ。教材展の展示方法を工夫し、地域の学校にも見学して役立ててもらえるよう本校教員が実際に使って紹介する機会を夏季休業中の早い時期に実施する。(研究研修部)<br>スクールカウンセラーによるカウンセリングマインド研修会を2回実施した。来年度も教師間、子ども・保護者との信頼関係を築くために役立つ研修内容を計画していく。(支援部)  | 学校は、一人一人の障害特性を理解し、専門的な知識・技術をもって指導にあたっている。                                    | 3.54  | ・交流および共同学習は10年以上続いていて、嬉しく感じた。<br>・センターの機能に関しては、地域の特別支援担当の先生との関わりを深めてほしい。<br>・職員が一つになって、前向きに進められているように感じる。<br>・地域も巻き込んで発信、連携ができればよいと思う。東はりまフェスタなども地域の方がもっと参加できたり、一緒にやったりしていただけたらと思う。<br>・交流活動が多くて嬉しい。<br>・世間では学校の職員不足が叫ばれていますが、大丈夫ですか？地域も一緒に何かできれば、と思う。<br>・保護者代表の立場として、見えない部分を見ることができて学校への信頼が高まった。保護者どうしの共有ができればよいと思う。<br>・保護者の学校評価を見ると、3.79~3.54の評価値を示しており、概ね良好と思われる。   |
| 10 |                  | 個人情報保護・情報管理               | 個人情報保護の観点に基づき、児童生徒や保護者に関する情報を適切に管理している。                          | <情報部><br>個人情報の管理<br>「情報資産の分類とその管理(取扱い)」に基づく情報管理<br>情報セキュリティ実施手順の策定                             | 3.60 | 情報資産をより適切に扱えるように、研修を通じて情報セキュリティ実施手順や取扱いの周知徹底を行う。校内の情報資産の置き場所をわかりやすく提示したり、マニュアルを作成することで簡単に作業できるようにする。また、必要に応じて情報セキュリティ実施手順の変更を行い、実態や状況に即した管理を目指していく。(情報部)   | 学校は、お子様の情報や家庭からの情報を適切に管理している。  | 3.76  | ・交流および共同学習は10年以上続いていて、嬉しく感じた。<br>・センターの機能に関しては、地域の特別支援担当の先生との関わりを深めてほしい。<br>・職員が一つになって、前向きに進められているように感じる。<br>・地域も巻き込んで発信、連携ができればよいと思う。東はりまフェスタなども地域の方がもっと参加できたり、一緒にやったりしていただけたらと思う。<br>・交流活動が多くて嬉しい。<br>・世間では学校の職員不足が叫ばれていますが、大丈夫ですか？地域も一緒に何かできれば、と思う。<br>・保護者代表の立場として、見えない部分を見ることができて学校への信頼が高まった。保護者どうしの共有ができればよいと思う。<br>・保護者の学校評価を見ると、3.79~3.54の評価値を示しており、概ね良好と思われる。   |
| 11 |                  | 外部機関・家庭との連携               | 児童生徒の課題について、家庭・外部機関と協力・調整を図り、情報を共有して課題解決に取り組んでいる。                | <支援部><br>外部機関や専門家との連携<br>拡大支援会議<br>主治医訪問<br><総務部・教務部><br>家庭訪問・個人懇談会<br>授業参観                    | 3.45 | 保護者や担任の意向に応じて、関係機関にも参加していただき、適宜拡大支援会議を開催した。より保護者の思いや悩みに寄り添い、少しでも負担軽減ができるよう、さらに外部機関との連携を深め、有益な情報を提供できるようにしていく。(支援部)<br>授業参観や個人懇談会では、児童、生徒、保護者がより充実した見学や懇談が行えるように継続して計画を立てていく必要がある。(総務部)<br>高等部の懇談記録については、事前に進路指導部長・学年主任と協議し、進路の内容についての充実をはかる。小・中学部も懇談で話し合う内容を事前に学部と確認を行う。(教務部)  | 学校は、必要に応じて関係機関等と連携し、保護者とともに、課題解決に向けて相談することができている。                            | 3.58  | ・交流および共同学習は10年以上続いていて、嬉しく感じた。<br>・センターの機能に関しては、地域の特別支援担当の先生との関わりを深めてほしい。<br>・職員が一つになって、前向きに進められているように感じる。<br>・地域も巻き込んで発信、連携ができればよいと思う。東はりまフェスタなども地域の方がもっと参加できたり、一緒にやったりしていただけたらと思う。<br>・交流活動が多くて嬉しい。<br>・世間では学校の職員不足が叫ばれていますが、大丈夫ですか？地域も一緒に何かできれば、と思う。<br>・保護者代表の立場として、見えない部分を見ることができて学校への信頼が高まった。保護者どうしの共有ができればよいと思う。<br>・保護者の学校評価を見ると、3.79~3.54の評価値を示しており、概ね良好と思われる。   |

|         |   |               |  |  |                                      |   |   |      |  |
|---------|---|---------------|--|--|--------------------------------------|---|---|------|--|
| 12      | 開かれ・つながる学校づくり   | 情報発信・理解啓発     | 各種便りや学校ホームページ等により効果的な情報発信を行い、地域や保護者への理解啓発を進めている。   | <総務部・情報部・各学部><br>学部・学年により<br>学校ホームページ・ブログ・楽メ<br>オープンスクールの実施  | 3.33                                 | 地域の学校以外へのオープンスクールの情報発信は、自治会への案内とホームページを介して紹介している。今後、さらに関係機関への案内についても検討していく必要がある。また、開かれたオープンスクールが開催できるよう継続して実施状況を観察していく必要がある。(総務部)<br>行事だけでなく、日々の学習活動についても活動の様子がわかりやすい写真、文章でより一層丁寧に伝えていくことを教師間で共通理解する。(小学部)<br>学年通信は月1回程度発行、ブログは週1回～2週間に1回程度行っている。今後も定期的に情報発信を行う。(中等部)   | 学校は、各種便りやホームページ等で、様々な情報を適切に提供している。  | 3.65 |  |
| 13      |   | 交流及び共同学習・地域交流 | 交流及び共同学習を通じて相互理解を深めるとともに、児童生徒の教育的ニーズを十分把握し、交流の目的を理解し双方の児童生徒にとって効果的な活動を設定している。他機関との連携を深め、地域貢献活動にも取り組んでいる。 | <各学部・教務部><br>校外歩行:播磨町内(小)<br>副籍校の確認、居住地校交流(小中)<br>コミュニティ活動(地域清掃)(中)<br>農業体験:田植え、脱穀(中)<br>播磨小学校との学校間交流(小23)<br>播磨中学校、播磨南中学校との学校間交流(中)<br>播磨南高等学校との学校間交流(高)<br>地域のシニアクラブとの交流(高1)<br>考古博物館見学と体験学習(高1)<br>あえの里との清掃と交流(高1)<br>考古博物館屋外清掃(高)<br>東はりま作品展(全校) | 3.43                                 | 年度ごとに交流を実施する学年の児童の実態を踏まえ、それぞれの学校の児童にとって、相互理解につながる交流となるように播磨小学校と目的や内容について詳細に打ち合わせを行っていく。(小学部)<br>交流活動の事前準備と振り返りの時間確保するとともに、生徒の教育的ニーズに応じた活動内容の精選と、交流相手校との綿密な打ち合わせを強化する。地域の福祉施設等と連携し、生徒の主体的な地域貢献活動の機会を計画的に設定していく。(中学部)<br>居住地校交流・学校間交流共、事前に綿密な打ち合わせを行うことを継続していく。高等部は今年度より再開された播磨南高校との学年集団同士での交流を来年度以降も継続していくために、意義・目的を明確にして実施計画をたて実施していく。(教務部・高等部) | 学校は、居住地校交流や学校間交流、地域交流、地域貢献活動等を通して、双方の相互理解を深める効果的な教育活動を展開している。   | 3.63 |  |
| 14      |   | センター的機能       | 教育相談や研修会、各種連絡会により、他機関や地域の施設・学校との連携を深め、センター的機能としての役割を推進している。  | <支援部><br>各地域ネットワーク会議<br>各市町支援協議会<br>あんしん相談<br>巡回相談<br>公開研修会  | 3.33                                 | 地域の小中学校の巡回相談や高校通級、地域の学校園に通う子どもたちを対象としたあんしん相談を実施している。公開研修会として、「自立活動について～よりよく生きる気づき～」と題し、兵庫大学の教授にご講義いただき好評を得た。来年度は「自立活動」を核とした教材開発・講演・研修を全国で展開されている「いるかどり」さんを講師に迎え研修会を計画している。(支援部)   |   |      |  |
| 15      |   | 働きがいのある学校づくり  | 職員間連携  | 児童生徒の課題に対して職員間で情報共有を図るとともに、業務改善や働きがいのある職場づくりに取り組んでいる。  | <各学部><br>クラス・学年・学部・学部長会・各種委員会による情報共有 | 3.28  | 会議など情報共有する場の設定はできているので、それに加えて、学年間の交流や学年を越えたグループでの研修等を通じて、情報共有しやすい雰囲気醸成していく。(小学部)<br>学年・学部を超えた情報共有と連携を強化し、学部全体で生徒の各段階での成長を次の段階につなげる指導に引き続き取り組んでいく。(中学部)<br>teamsでの情報共有を積極的に行う(高等部) |      |  |
| 16      |   | 業務改善          | 校内会議の整理、ICT活用、事務作業の効率化などの取組が実施され、教職員の業務負担の軽減が図られている。   | <全職員><br>定時退勤日の推進<br>業務改善<br>サービス支援システムの活用<br>NO残業デー、NO会議デーの設定   | 2.93                                 | (ICT活用に関して)文書や授業案などのたたき台を作る際に、生成AIを活用して負担軽減を図る。生成AIの利用に対しての研修や情報提供を積極的に行う。<br>NO残業デーを設定しているが周知徹底が難しい。当日の告知など今後工夫が必要。(総務部)<br>teamsを活用することで、全体の職員連絡がスムーズに行われ、職員朝礼が簡略化できている。さらに学年間や学部間での連絡に積極的に活用されるように啓発を行う。<br>サービス支援システムにより超過勤務の状況を把握できている。超過時間の多い職員には声をかけて、要因の聞き取りに努めていく。   |   |      |  |
| 学校評価まとめ | <p>職員と保護者にFormsアンケートにより、回答を得るようにした。職員の回答率は97.1%、保護者からの回答率は76.4%(昨年度は80%)であった。</p> <p>昨年度に学校評議員より、学校評価の項目が多く、成果と課題等の情報量も過多であることが指摘され、整理することが求められていた。そこで今年度の学校評価は、昨年度と比較して、評価項目を25項目から16項目に減らした。なお、16項目に減らしたことで、昨年度との経年比較は行わず、今年度の評価結果を掲載するのみとした。</p> <p>保護者評価結果については良好で、3.54から3.79の評価値を得ており、おおむね学校生活には理解をいただいていると思われた。ただし、学校評議員より、評価項目を示してアンケートをとるだけでは、保護者には何を評価するのか分かりにくいのではないか、との指摘を受けており、今後は学校での各学部や各校務部の取組をより工夫して知らせていくことが必要になっていくと思われた。</p> <p>一方、職員評価については、「業務改善」の項目が相対的に低い評価になった。ただ、4点評価のアンケートだけでは、具体的にどのような改善が必要なのかが見えてこず、学校評議員からも指摘があったように、記述方式で、具体的に意見を求めることも検討していく必要があると思われた。</p> |               |  |  |                                      |   |   |      |  |